

Biografia Leksikono
de la Japana Anarkista Movado

日本アナキズム運動 人名事典



最新・最高の社会運動人名事典!

880頁一巻の大冊。視点は斬新、記述は正確、
情報は豊富。社会運動史見直しの起爆剤に。



日本アナキズム運動人名事典編集委員会・編

はる出版

編集に参画して

鶴見俊輔



撮影：新井翠翹

秋山清のコスモス忌でのわたしの提案でスタートしたが、その時のつもりよりかなり大きくなった。アナキズム的な動きをした人物は載せるという方針でそこに力を入れたから、普通の事典とちがって凸凹の多い行儀のわるい事典になった。しかしアナキズムとはそういうものじゃないかな。わたしも戦後來日して日本人権協会設立の親となったロジャー・ポールドウィン調べて書いた。日本の人名事典には載ってない。日本にもあった自由や平和を強く主張する思想に広く光を当てたこの事典の刊行はタイムリーだと思う。(談)

発刊にあたって

「日本における社会主義、共産主義、無政府主義の種を宿していた、あの温床はかなり健全であり、豊饒であったと思います」とは平民社についての石川三四郎の回想である。

さてそれから100年の歳月を閲した今、その種はすくすくと育ち、見事に実を結んだだろうか。残念ながらとてもそうは言えまい。何故か。この重たい問いにわれわれは虚心で立ち向かう必要に迫られている。この事典はそれにいささかでも役立つことを目指し、以下の基本方針により作業を進めた。

1. 「論より証拠」「実事求是」に徹する。立項した人物の基礎情報(姓名・地名・組織名・年月日・事実経過など)は可能なかぎり正確を期し、その根拠を明記することにつとめた。
2. アナキズム運動なる概念の外延を最も広く設定する。『労働運動』『自由連合・自由連合新聞』『黒色青年』など主要機関紙はもとより、700点に近い運動・文芸・思想紙誌(巻末一覧参照)を検索し、約3000名を立項した。
3. アナキズム運動との関わりをクローズアップする。従来歴史記述にはアナキズム運動との関わりを故意にあるいはそれと知らずに隠蔽し、省略する傾向が多々みられるゆえ、各項目の記述にあたってはとくに運動との関わりを強調した。
4. 諸外国、とりわけ近隣諸国で日本の運動に深く関わった人物を可能なかぎり立項する。さらに直接の関わりが薄くとも運動全体の視点から必要と判断される人物を加えた。
5. 先人が遺した文献・史料ならびに最新の研究成果を重視する。1巻の小項目事典の情報量には限界がある。それゆえ「著作」「文献」欄の充実につとめ、情報枠の拡大を計るとともに今後の運動・研究の礎とした。

企画発足以来約6年、気骨の折れる、しかしやり甲斐のある仕事であった。幸いにして多くの方々の奉仕ともいえる貴重な協力をいただき、感謝にたえない。その大半は在野の方々の、まことにこの事典にふさわしい陣容となった。また版元のぼる出版は辛抱強くわれわれの作業を待つて下さった。合わせて心からの謝意を表したい。

現在の時点で望みうる最上の事典を世に送り得たと自負するものだが、さらに読者諸賢のご教示を得て完成度の向上につとめ、末永く江湖に迎えられ所期の目的に資することを願ってやまない。

いとう

場の労働組合副委員長として活動。また鈴木勝、土屋公平らと千葉詩人会を、八日市場町を拠点とする北総文化会を結成するなど地方文化運動を推進しながら、全国的には『コスモス』『新日本文学』などに多くの詩作品を発表した。戦後に短期間共産党に入党したが、めだつた活動はなかった。(寺島珠雄)〔著作〕『伊藤和詩集』国文社1960〔文献〕秋山清『伊藤和』『近代の漂泊』現代思潮社1970、松永伍一『伊藤和と『馬』事件』『日本農民詩史・中1』法大出版局1968

伊藤 ルイ いとう・るい 1922(大11)6.7-1996(平8)6.28 大杉栄・伊藤野枝の四女として神奈川県三浦郡逗子町(現・逗子市)に生まれる。大杉はアナキストのルイズ・ミッシェルにちなみルイズと命名。両親が虐殺された1歳の時、野枝の郷里福岡県糸島郡今宿村(現・福岡市)の祖父母に引き取られ瑠意子と改名されて育つ。17歳で結婚、2男2女の母となるが、アナ連の支柱副島辰巳の雲月堂に入り、37歳で博多人形彩色職人となり、自らルイを名のる。42歳で離婚、公民館での政治学級で学習に励む。49歳から最初の本格的活動となる朝鮮人被爆者支援の中心となる。以降、両親の名の重圧に耐えながら次々と反体制市民運動に関わる。特に60歳以降は解き放たれたように全国を駆け回り、草の根的ネットワークを紡ぎ続けたが、それは「アナキストとして虐殺された両親がやろうとしてもできなかったことかもしれない」(鎌田慧)と評価された。晩年に力をつくしたのは東アジア反日武装戦線の死刑囚の外部交流を求めた裁判であった。没後藤原智子監督の記録映画「ルイズーその旅立ち」が製作された。(松下竜一)〔著作〕『海の歌う日』講談社1985、『虹を翔ける』八月書館1991、『必然の出会い』記録社1991、『海を翔ける』八月書館1998〔文献〕松下竜一『ルイズー父に貫いた名は』講談社1980、『しのぶぐさー伊藤ルイ追悼集』草の根の会1997

糸川 二郎 いとかわ・にいちろう 1891(明24)1.3-1963(昭38)2.23 千葉県印旛郡安食町(現・栄町)の農家に生まれる。高等小学校を卒業後、家業を継ぐ。その後上京、東京ガス社外工を経て、08年横浜に移り沖仲士となる。19年吉田只次、石井鉄治らと横浜労働組合期成同盟会の結成に参加。沖

本文組見本[実物大]



仲仕争議に関わる。横浜赤旗会にも加わり、20年神奈川県下初のメーデーに大本、池田らと黒旗を持って参加。23年関東大震災直後救済義団を組織し、焼け残りの家から食料品を集めたことが強盗罪に問われ入獄する。24年横浜合同労働組合を組織し評議会に加盟、30年横浜市議となる。敗戦後は社会党を経て共産党で活動。(富板敦)〔文献〕野口義明『無産運動総闘士伝』社会思想研究所1931、『京浜の夜明け—糸川二郎伝』神奈川県旧友会1963、『解放のいしずえ』新版、堅山利忠編『神奈川県労働運動史』県労働部労政課1966

糸島 孝太郎 いとじま・こうたろう ?-? 岡山機械工組合のメンバー。1923年(大12)5月入江秀夫、竹内春三、高木精一、玉田徳三郎らと中国労働連合会(同年末頃中国労働組合連合会と改称)を結成。24年3月中国労働組合連合会記念大会に入江、玉田らと参加。25年12月岡山県無産者団体協議会創立発会式で高木と常任委員になる。26年5月全国自連第1回全国大会に中国自連岡山機械工を代表して高木や塗谷逸次郎(繁谷市太郎)らと参加、代議員として労農党撲滅演説会の全国展開を提案。高木、竹内、重実逸次郎、小野田太郎らと中国自連の一翼を担う。27年6月製鉄労働争議団本部が広島県沼隈郡鞆町(現・福山市)の糸島方に置かれ、山口勝清らが応援。28年3月全国自連第2回続行大会に中国自連と加盟組合を代表して報告。大会での退席退場騒ぎでは有安浩雄らと行動をとるとし残留。同年8月倉敷市の黒魂社での山陽黒旗連盟創立への協議会に高木と出席。山陽黒旗連盟には中国自連、倉敷黒魂社、福山黎明社、広島自連などが参加。29年岡山市の組合事務所やカフェ・ブラジルで大杉栄追悼集会を開催する。(北村信隆)〔文献〕山木茂『広島県社会運動史』、坂本忠次『普選運動・無産運動史料』『岡山大学・経済学会雑誌』14巻2号1982.10、『岡山県労働運動史』、『労働運動』4次4号1924.6、『自連』1・3-5・8号1926.6・8・10・27.1、『中国連合』3輯1926.3、『反政党運動』1・3号1927.6・8

稲生 益太郎 いなお・ますたろう ?-? 報知新聞社に勤め、北風会に参加する。1919年(大8)7月新聞従業員組合革進会に入り、8月在東京16新聞社の同盟ストに加わるが敗北。同年12月の正進会の結成に関わる。

1921(大10)・22年頃埼玉県北埼玉郡大桑村(現・加須市)で小作人労働会の組織化を計画する。(富板敦)〔文献〕『小作人』1次1号1922.2

中里 介山 なかざと・かいざん 1885(明18)4.4-1944(昭19)4.28 本名・弥之助、別名・羽村子 神奈川県西多摩郡羽村(現・東京都西多摩郡羽村町)に生まれ、小学校卒業後、尋常小学校の教員助手となった。幼少のころから天才であることを自覚し、高等教育を受けられないことがかえって拍車となって才能を励ました。『平民新聞』に投稿。内村鑑三、木下尚江、山口義三、白柳秀湖の知遇を得て社会主義思想を内に育てた。06年『都新聞』主筆田川大吉郎に社会部長に起用され、同紙に「氷の花」(1909)その他の小説を連載し、やがて「大菩薩峠」の連載を開始する。19年都新聞社を退社。22年郷里に帰農、『独身』『手紙の代り』『孤立者の通信』などの個人紙を発行する。27年羽村に西隣村塾を開き、農本主義的な青年教育を試みる。38年から40年にかけて刊行された『百姓弥之助の話』全7巻(隣人之友社)は自らを百姓弥之助と名のる介山の自由奔放な「総合小説」である。その間も「大菩薩峠」は断続的に書き継がれ、未完に終わるが、この大作は芥川竜之介、宮沢賢治の心をとらえた。中谷博はこの作品を平民社系社会主義からの転向小説としたが、この区分を超える性格を備えることは、桑原武夫が『パーゴラ』に書いた短い批評を糸口として、55年からの高度成長による近代化のなかで明らかになっていく。桑原によると、明治以後の日本の小説は西洋近代化に沿ってつくられたが、「大菩薩峠」は江戸時代の自前の近代、支配層の官僚文化を担う儒教、中世以来の仏教的無常観、古代以前のどろどろした宿命信仰を併せもっている無類の小説である。42年6月第2次大戦下に翼賛体制の一部として日本文学報国会が設立され、中里は入会を誘われたが断る。軍国主義の統制が強化されるなか介山は青年時代に接触したジャン・ジャック・ルソーの気概を保って日本脱出の夢を「大菩薩峠」に書いていた。(鶴見俊輔)〔著作〕『中里介山全集』全20巻・筑摩書房1970-72〔文献〕尾崎秀樹『峠の人 中里介山』新潮社1980、中村文雄『中里介山と大逆事件』三一書房1983、小松隆二『大正自由人物語』岩波書店1988

店1988

中沢 輝夫 なかざわ・てるお 1905(明38)2-1978(昭53)12.25 長野県生まれ。18年頃父母と死別し上京する。23年頃総同盟日本鉄工組合に加わり、総同盟前線同志会で活動。総同盟分裂後は関東地方労働組合評議会に移る。各地を放浪したのち、26年東京に戻る。新聞配達をしながら新聞労働連盟、黒連に加わり、27年にプラクン社を設立(のち乱調社と改称)。28年全国自連第2回続行大会に社会評論社を代表して祝辞を述べる。29年頃、社会評論社の事務所を自宅に置く。戦後アナ連に参加。のち二見敏雄、入江汎、山口安二、満田友之助、三井利員らと日本自治同盟を結成し書記長となる。(富板敦)〔著作〕『私はなぜアナキストになったか』『平民新聞』60号1948.2〔文献〕『黒色青年』7・11・22号1927.3・8・29.12、『自連』23号1928.4

中沢 天蓋 なかざわ・てんがい ?-? 1922年(大11)7月岡山連隊に反軍ピラがまかれた過激思想軍隊宣伝事件に連座して、飯田徳太郎、伊串英治と検挙される(警察拘留で釈放)。(富板敦)〔文献〕『労働運動』3次7号1922.9

長沢 確三郎 ながさわ・かくさぶろう 1894(明27)4.12-? 別名・青衣、角三郎 京都市新町御池下ル生まれ。19年2月山鹿泰治、真言宗東寺派の機関誌『六大新報』社員深尾巳之助、横井仙之助、薬店店主上田蟻善、岡本重四郎、深草みどり、深見きん、水車業小野清正らとともに一斉検挙され、6月罰金120円の判決を受ける。容疑は山鹿の秘密出版に関わるもので、『麵麩の略取梗概』『サンジカリズム』『平民の鐘』などを配布したというものである。上記の人々のほか先斗町の芸者も含めて50-60人が取り調べられたという。6月第1審の判決は山鹿が禁錮2年、上田が禁錮4カ月、深尾が禁錮2カ月、のち検挙された上原友定が罰金120円、後藤仙吉が罰金80円であった。同年9月5日望月桂宅で開かれた革命芸術の茶話会に久板卯之助、中里介山、宮地嘉六らと出席。20年1月新橋平民クラブ、次いで横浜金港亭での社会主義者の新年会で上演された革命芸術同志劇で望月とともに舞台装置を受け持つ。同年4月黒耀会第1回作品展覧会に出品し、機関誌『黒耀』(1号のみ)の編集発行人となる。弾圧を受けた11月の第

編集委員

- | | | |
|-------|------|-------|
| 猪野健治 | 植本展弘 | 大澤正道 |
| 奥沢邦成 | 亀田 博 | 川口秀彦 |
| 黒川 洋 | 呉 章煥 | 後藤彰信 |
| 小松隆二 | 近藤千浪 | 玉川信明 |
| 津田 透 | 鶴見俊輔 | 手塚登士雄 |
| 寺島珠雄* | 戸田 清 | 戸田三三冬 |
| 富板 敦 | 西村 修 | 古橋雅夫 |
| 真辺致真 | 三原容子 | 山口 晃 |
| 山口 守 | 李 文昌 | |



[定価]

本体23,000円＋税

ISBN4-8272-0098-X C0521

[体裁]

A5判・総頁数880頁・収録人名3000名

本文8.5ホ横2段組・上製本

表紙布クロス装・ジャケット掛け・函入り

[装幀]

工藤強勝＋伊藤滋章

類書に例をみない本事典の特色

- ◆ 安藤昌益・田中正造から埴谷雄高・水木しげるまで収録人名3000名。
革命運動・労働運動はもとより文学・芸術・思想運動のすべてを網羅し、朝鮮・中国・台湾に及ぶ。
あっと驚く新発掘、新視点を多数掲載！
- ◆ 100名に近い新進気鋭の在野研究者を揃え、最新の調査・研究による史料・文献を
洩れなく付した渾身の記述は類書に比をみない！
- ◆ 70頁あまりの巻末付録・アナキズム運動関連新聞・雑誌リスト一覧(1912～1940)には発行所、
発行年月日、号数、主要参加人名をきっちり記載。研究者には垂涎・必携の宝となる！

[注文書]

日本アナキズム運動人名事典を 部申し込めます。

お名前

ご住所

お電話番号

E-mail

お申込書店

株式会社 ばる出版

〒160-0003

東京都新宿区本塩町8番地

tel.03-3353-2835

fax.03-3353-2887

<http://www.sanpal.co.jp/pal/>